

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を!

# ほっかいどうの社会保障

2014年1月22日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

## 年金引き下げ不服審査請求

**4000件超す (1/22 現在)**

**各地で広がっています。 障害者団体でも 両親にも働きかけ**

年金引き下げに対する不服審査請求が広がり、1月22日現在で、北海道で4238件になり、4000件を越えました。

年金生活者から引き下げによる深刻な訴えも寄せられています。年金者組合をもとより、道生連では400件となりました。北海道民医連関係では、患者・利用者をはじめ友の会員にも広がっています。「申請書を送ってほしい」などの連絡もあります。道北勤医協では、現在70件、職員に対しても「親にも働きかけよう」とすすめています。また、障害者団体でも、とりくまれています。札幌市内にある精神障害者回復クラブすみれ会では書き込み会(写真)も行っています。

1月31日に全道各地で一斉に提出します。まだ、時間があります。年金生活者のみなさんに、とりくみを紹介しましょう。



### 一人ぐらしの80歳女性の訴え

「私は年金80万437円の年金で暮らしています。電話・電気・神社やお寺のお金・町内会費・水道代・病院代・ガス代、税金。消費税も医療費も上がるそうです。子どももいますが、子育て中で、頼れません。つめに灯をともしようなくらしをしています。これ以上年金が引き下がられたらどうして暮らしていったらいいのでしょうか」

年金額2.5%削減、マクロ経済スライド発動阻止、年金制度の改善、最低保障年金制度の確立をめざす

## 不服審査請求提出集会

と き 2014年1月31日(金) 午前10時より  
と ころ 北海道クリスチャンセンター (会場変更)

**私たちの生活は、本当に命がけのぎりぎりの生活です。**

## 生活保護不服審査請求

**冬期加算、期末一時扶助引き下げで口頭意見陳述**



### 高校生と小学生と暮らす母子家庭の例

冬期加算・期末一時扶助の減、特別勤労者控除廃止で、前年と比べて10万円の減。  
「クリスマスには！正月には！子どもにあれを買ってやろうかと、思っていたができなかった」

22日、生活保護(冬期加算、期末一時扶助)の引き下げに対する不服審査請求の口頭意見陳述が道庁内で行われました。小樽で不服審査請求を行った86人を代表して12人が参加、引き下げによる深刻な生活実態を告発し、引き下げの中止を求めました。

代理人の佐藤勤氏(小樽生活と健康を守る会会長)は、

「冬期加算は、①燃料費、②冬期被服費、③冬期栄養費、④冬期暖房用具代として作られました。しかし、アベノミクスなどにより、灯油代が102円を超え、食品等の日常生活にかかせない必需品など物価が上がっていて、暖房器具も高額になっています。引き下げではなく引き上げが必要です。期末一時扶助の引き下げによって、単身者、とりわけ多人数世帯に至ってはまともな正月を遅れなかったのが事実です」と訴えました。

- 「月の灯油代が21600円、冬期加算21810円が灯油代に飛んでいきます。夜早く寝て遅くまで布団に入っています」
- 「8月から基準、11月からの冬期加算、12月の期末一時扶助の引き下げ。灯油代がかさみ、冬の着るものも買えません。風呂も3日に一度から4日に一度にしました。4、5月も灯油代がかかりますが、冬期加算は3月までです」
- 「期末一時扶助が5千円以上減。これまでは着る物を買っていたができなかった」(息子さんと暮らす女性)



## ストップ!暴走政治 1.24国会召集日デモ

●18:15~ 集会(かてる2.7 大会議室 4階) ●18:45~ デモ